

令和8年度 学校経営計画書

学校番号	73	学校名	浜松湖東高等学校	校長名	渥美 真人
------	----	-----	----------	-----	-------

1 スクール・ミッション

地域や社会の将来を担う人材の育成を図るために、地域社会が抱える課題の解決に向けた学びに重点的に取り組み、生徒自身が実際に様々な社会問題と向き合うことで、実社会との関わり方を体験を通して学び、論理力や答えの出ない事態に耐え得る力を身に付け、「自分から、自分らしく、自分の言葉で語れる生徒」の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

【グラデュエーション・ポリシー】

答えの出ない事態に耐え得る力を身に付け、相手の主張の道筋を読み解き、自分の考えを整理して自分の言葉として伝えることができる。

【カリキュラム・ポリシー】

探究を軸に自分で見つけたことを相手に説明し、対話を繰り返す中で自分の考えを見直して自分の言葉にしていく。そのために、教科横断的な視点で以下6つの資質・能力を育成する。

- ①「論理的思考力」(相手の主張の道筋を読み解き、自分の考えを整理して伝える力)
- ②「関連づける思考力」(唯一の正解が存在しないものに、最適解や納得解を見出す力)
- ③「分析・批判的思考力」(対立やジレンマに折り合いをつける力)
- ④「ネガティブ・ケイパビリティ」(答えの出ない事態に耐え得る力 / やり抜く力(グリット(GRIT)) / 立ち直りを促進する力(レジリエンス(RESILIENCE)))
- ⑤「コミュニケーション能力」(他者と良好な人間関係をつくる力 / 他者との対話の中で、自分の考えを再考し、自己の理解を深める力)
- ⑥「発信力」(自分の考えを要約して相手の記憶に残るように話す力)

【アドミッション・ポリシー】

答えのない問いに挑み、仲間と共にやり遂げる体験を通して、自ら学び、成長していこうとする。

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

ア 対話により建設的相互作用を引き起こす知識構成型学習

「ジグソー法」

(テーマや課題について、役割分担をして調べ学習を行い、自分が調べた内容を教え合う手法)

「R80」

(2文を接続詞一つで結び80字以内で書く手法)

イ 総合的な探究の時間

「ソーシャルチェンジ」(困っている人を助けて、笑顔にする企画を考えるプログラム)

「エンジン」(地元企業とのインターンシップを生徒と企業の方が対面で話し合いながら、共に未来をつかっていくプログラム)

「課題研究」

ウ 探究プロジェクト

エ 時間外在校等時間数の縮減と教職員一人一人の健康管理

様式第1号

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	自ら学ぶ習慣を育成し、確かな学力を伸長させる。	授業を中心とした予習と復習、課題等を着実にを行う中で、生徒が自ら苦手箇所を正確に把握し、1人1台端末を活用して、個々に適した学習を見つける。	自分自身の苦手箇所を正確に把握し、自分に合った学習を進められる生徒 70%以上	教務 各学年
	探究的な学びを推進する。	総合的な探究の時間において「ソーシャルチェンジ」「エンジン」「課題研究」の各プログラムを実施するとともに、探究プロジェクトの企画・運営・調整・研究等を行う。	自分の最適解や納得解など考えを表現できると答える生徒 70%以上	探究
		授業で生徒に期待する資質・能力の発揮のされ方を明確化し、生徒が主体的に授業に取り組めるよう授業改善を行う。		各教科 教務 図書 DX
	「時を守り、場を清め、身を正す」指導をすすめ、規範意識を醸成する。	保護者の理解・協力を得ながら、全教員の共通理解の下、生徒が自ら意識して行動できるような指導を行う。	校内における私物の管理(机上やロッカーの上等に放置しない)ができる生徒 95%以上	生徒 保健
			「生活面(服装・頭髪等)はしっかりしている」と答える生徒 85%以上	各学年
	生徒が主体的に将来設計できるような進路指導を推進する。	進研記述、全統記述等の偏差値50ライン(模試の35点獲得ライン)から分析し、理解促進のために、一人ひとりに合った授業を進める。	自分自身の実力を正確に把握し、自分に合った進路を決められる生徒 80%以上	進路
			本校の進路指導に対して満足と感じる卒業生 90%以上	
	全員が積極的に関わり、主体性や社会性を育む。	成就感や達成感を持たせる指導を推進し、活動をいかした奉仕活動を実践する。	部活動に積極的に取り組んでいる生徒 80%以上	生徒
		生徒が自ら企画・実行できる特別活動を推進する。	各部活動による奉仕活動 年1回以上	
	一人ひとりが、諸活動に前向きに参加し、他者との関わりの中で自己肯定感を醸成する。	自尊感情と規範意識のバランスのとれた育成のために、認めて育てる指導を行う。	本校の教員は自分のことを認めてくれていると感じる生徒 80%以上	保健
課題を抱える生徒について情報を共有し連携した組織対応をする。		学校に安全・安心の場があると答える生徒 80%以上	生徒 保健 各学年	
人間関係づくりプログラムを実施し、他者と良好な人間関係をつくる。				
広い視野で物事を考えることができるよう、読書活動の充実を図る。	読書に親しみ、自己の生き方在り方を考える生徒を増やす。	朝読書や授業を含め学校や家庭で読書に取り組めたと答える生徒 80%以上	図書 DX	

様式第1号

イ	研修の充実を図り、その成果を共有することで、指導力の向上を図る。	公開授業日を年2日以上設定する。 探究学習を軸とした校内研修を年2回以上実施する。 校外研修の内容を共有し、いかす。	探究学習を軸とした校内研修、校外研修の内容を主体的かつ組織的に活用・実践した教職員 70%以上	探究
	内規・各種規定の整理を行い、効果的な指導方法を検討する。	各種内規・規定及び、各分掌・学年の事業の見直しを行う。	点検した内規・規定 100% 各事業の目的の明確化 100%	全分掌
	保護者、県民等への広報活動を充実する。	ホームページやInstagramの更新に努めると共に、メール送信を積極的に活用する。	ホームページとInstagram更新合計回数 年200回以上 行事開催の案内通知と併せたメール送信やオンライン配信の実施	教務 総務 図書 DX
	PTA・後援会・同窓会と連携した教育環境の整備を図る。	生徒や保護者の意向を重視した環境整備を行う。	良い環境で学習・部活動ができていると感じる生徒 70%以上	総務 事務
	施設設備の充実を図る。	常に安全に配慮し、計画的に修繕する。	危険性の早期把握、迅速な対策、及び利便性の向上	事務
ウ	校内業務が、職員にとって過重な負担とならないよう、業務の見直しと改善を行う。	業務の在り方、見直しについて一人ひとりが意見を出しやすい環境をつくり、全員で実践できる体制を整備する。	業務の見直しについて、小グループ(分掌・学年等)での検討 月1回以上 全体での検討 年2回以上	全職員
		時間外在校等時間数の状況を把握、分析したうえで、教職員一人一人が業務の効率化を工夫し、時間外勤務の削減に努める。	職員の時間外の月平均 45時間以下 教職員完全退勤時刻(20時)の遵守 生徒完全下校時刻(19時30分)の遵守 各自定時退勤(16:45) 週1回以上	